

# 7-7

## 家族と本音で向き合うターミナルケア

家族にできること・職員にできること

家族

ターミナル

特別養護老人ホーム 葛飾やすらぎの郷

介護職 柳田望	上野康明・梶谷直志・宮崎由希・長谷川浩司
東京都葛飾区新宿3-4-10	
TEL: 03-5648-8250	E-mail: <a href="mailto:yasuaki-ueno@totokyoikai.jp">yasuaki-ueno@totokyoikai.jp</a>
FAX: 03-5648-8251	URL: <a href="http://www.sukoyaka-fu.or.jp/">http://www.sukoyaka-fu.or.jp/</a>

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	社会福祉法人すこやか福祉会が母体である葛飾やすらぎの郷は平成13年4月に開設。特養80床、短期入所生活介護16床、デイサービスを併設した福祉施設です。
----------------------------	---

### <取り組んだ課題>

- ・ 特別養護老人ホーム内での看取り介護
- ・ 本人との意思疎通が図れない看取り  
家族が本人の思いを代弁し、意向を明確にしていく

### <具体的な取り組み>

- ・ ターミナル期間  
2007年9月～2008年1月までの約5ヶ月
- ・ 家族の意向の確認（施設での看取りを希望）
- ・ 家族と職員の連携  
面会時に情報交換 家族の協力を得てのケア
- ・ 職員間（多職種を含め）の連携  
食事、ベッド環境などの変更
- ・ 最期まで食べることを続けるための取り組み  
栄養課との連携 嗜好品の提供
- ・ 家族ノートの活用
  - ① 家族、職員間の連絡
  - ② 家族同士の連絡
- ・ 偲びのカンファレンス
  - ① 職員間のカンファレンス
  - ② 家族交えてのカンファレンス

### <活動の成果と評価>

- ・ 家族、職員の満足のいく最期を迎える事が出来た。
- ・ 最期まで食べて過ごすことが出来た。
- ・ 家族の面会も多く、家族・職員間でのこまめな情報交換、多職種との連携が出来た。
- ・ 家族と職員だけでなく、家族同士の連絡用として家族ノートを活用する事が出来て良かった。
- ・ 2回の偲びのカンファはケアの振り返りだけでなく、家族の思いをうかがう良い機会となった。
- ・ 施設生活の中で入居者・家族と職員という関係にとどまらず、本音で何でも言い合える関係がターミナル期にはいる以前からあり、それが深い信頼関係につながっていった。
- ・ 家族との協働ケアにより家族の意向や思いが理解でき、職員のターミナルケアに対する意識・意欲が高まった。
- ・ 生活の場としてどのように過ごしたいか伺う機会が少なかったことが心残りである。

### <今後の課題>

- ・ 多様化する家族背景や生活歴を持つ入居者が増えており、今回のように上手くいくケースは少ない。そうした中で個々にあったターミナルケアをおこなえるかが課題である。
- ・ 特養での「生活」「生きる」ことへの考え方、価値観の違いを介護職以外の職種と共有して、方向性の統一を図ることが必要である。

### 【メモ欄】